

ポップで紹介 椋鳩十の深い世界 「大造じいさんとがん」

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力・自己理解

単元について

○ 単元観

本単元は、小学校学習指導要領国語科第5学年及び第6学年、「C読むこと」の指導事項「エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」の内容を受けて設定したものである。

本単元では、学習指導要領の「C読むこと」の言語活動例(2)「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。」を基に自分の感想と深くかかわる文章や言葉を用いておすすめ紹介ポップを作るという言語活動を位置付ける。心情や場面の描写をとらえる力、場面の展開に沿って読みながら優れた叙述に着目して自分の考えをまとめる力をつけることを目標としている。また、作成した紹介ポップを用いて読んでほしい本を紹介することで、他者に伝えることの楽しさや喜びを感じさせることができるとともに、自分の思いや感じたことを他者に伝えることで、自分の考えの広がりや深まりを感じることができると考える。

教材文「大造じいさんとがん」は、中心となる人物である大造じいさんと、がんの頭領である残雪との戦いを中心に展開する物語である。大造じいさんの計略とそれに対抗する残雪の知恵が繰り返し描かれている。また、本教材は、大造じいさんを視点の中心近くにした三人称限定によって話が展開する。そのため、場面ごとに大造じいさんとがんの相互関係から、心情や場面の描写を捉える力を育成することをねらいとする。そして、大造じいさんから見た残雪の様子から想像を広げて読みを深めるとともに、残雪の仲間を守ろうとする姿や頭領らしい堂々とした姿を見て変化する大造じいさんの残雪に対する心情を共感的に読み取ることができると考える。

椋鳩十は作品の中で、厳しい自然の中で勇気と知恵をもって生きようとする動物の本来の姿を描いている。椋鳩十作品には共通して、物語性の巧みさがある。動物と動物、動物と人間との間で、自然の摂理の厳しさと命の尊さ、仲間への思いやりや自分の責任といったメッセージ性の強い主題を感じることができる。椋鳩十作品を、ポップを用いて紹介する活動を通して、作品に対する自分の考えを明確にするとともに、交流することでさらに自分の考えを広げさせることができると考える。

○ 児童観

平成29年度に行われた広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果では、「読むこと」の5(1)「叙述をもとにした想像(情景)」が52.9%、5(2)「叙述をもとにした想像(自分の考えの記述)」が43.7%と課題が見られる。

1学期の「世界でいちばんやかましい音」の単元でも、物語全体を通して最も大きな変化が起きるところを山場ということ、山場で起きる変化についても考えることで、より深く物語が味わえることを学習したが、叙述をもとに山場で起きる変化の根拠を説明することに課題が見られた。そこで、2学期には「注文の多い料理店」で、人物の行動や会話を手掛かりに人物の気持ちを考えたり、場面の移り変わりに合わせて変化する人物の気持ちを読み取ったりすることを中心に学習している。しかし、叙述をもとに自分が感じたことや考えたことを表現することに苦手意識をもつ児童が多くみられる。

○ 指導観

指導に当たっては、単元の導入である課題の設定場面で、本文を通読して感じた疑問や不思議に思ったことを、「問い」として児童にもたせ、大造じいさんの行動や会話、情景描写などから、大造じいさんの心情やその変化を読み取る中で、それらの「問い」を解決していく学習過程を大切にする。また、課題設定の場面では、教材文の「大造じいさんとがん」を通読した際に感じた初読の感想から、作品のもつ楽しさやおもしろさを伝えたいという児童の願いをもとに、読みの対象を椋鳩十作品に広げていく。さらに、自分の感じたことや思ったことが伝わるように椋鳩十作品の紹介ポップを作ることを単元のゴールに設定する。

単元の展開部分では、大造じいさんの行動や会話、情景描写などを根拠にして、登場人物の心情やその変化をまとめるとともに、叙述をもとにして自分の感じたことや考えたことをまとめることがで

きるようにする。本教材を含め、椋鳩十作品には多くの情景描写が用いられている。情景描写を読み取るためには、情景描写自体の理解と、情景が文脈の中でどのような効果をもつかを理解する必要がある。その他にも色や音など五感に訴えかける表現や、比喻、繰り返しといったような優れた表現がたくさん用いられている。そのため、単元のゴールであるおすすめ紹介ポップを作る際には、情景描写などの優れた表現を含んだ場面を選ばせ、叙述と自分なりに感じたことや考えたことを関連付けてまとめさせることで、理解が深まると考えられる。

共通教材の「大造じいさんとがん」を学習した後、児童には椋鳩十作品の「底なしの谷のカモシカ」、「森の王者」、「金色の足あと」から1つを選択させ、紹介ポップを作らせる。「大造じいさんとがん」で学習したことを生かして、課題教材でも読みを深めさせ、単元のゴールであるおすすめ紹介ポップを作る活動につなげる。紹介ポップを用いて椋鳩十作品を紹介することは、登場人物の人物像や深い心情をとらえるとともに、伝えたいことを自分の言葉で表現する点でも大変有効な手段であると考えられる。

本単元では、自己を理解する力として、椋鳩十作品について紹介することを通して、作品のもつ楽しさやおもしろさを感じるとともに、それらを他者に伝えることの楽しさや喜びに気付く力と、自分の思いや感じたことを他者に伝えることで自分の考えの広がりや深まりに気付く力を身に付けさせる。そのために、単元の最初と最後で、本教材に対する感じ方がどのように変化したかを見取ることができるようになる。さらに、同作品同士や違う作品同士でおすすめ紹介ポップを交流し、考えの違いや読み手の関心を引くための工夫に気付かせるようにする。

単元の目標

- 椋鳩十作品を読んで感じたことや考えたことが、多くの人に伝わるように紹介しようとする。
【関心・意欲・態度】
- 場面の展開に沿って読み、登場人物の行動や会話、情景描写についての優れた叙述に着目しながら、椋鳩十作品を紹介するために自分の考えをまとめることができる。
【読むこと エ】
- 擬声語・擬態語や比喻、反復などの表現の工夫に気付いて読むことができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ケ）】

単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
【言語活動】 自分の感想と深くかかわる文章や言葉を用いておすすめ紹介ポップを作る。		
椋鳩十作品を読んで感じたことや考えたことが、多くの人に伝わるように紹介しようとする。	場面の展開に沿って読み、登場人物の行動や会話、情景描写についての優れた叙述に着目しながら、椋鳩十作品を紹介するために自分の考えをまとめている。	擬声語・擬態語や比喻、反復などの表現の工夫に気付いて読んでいる。

単元で育成したい資質・能力

	A	B
【主体性】	・ 椋鳩十作品を読み、物語のもつ面白さや深さを味わい、椋鳩十が作品にこめたメッセージについて考えようとしている。	・ 椋鳩十作品を読み、物語の面白さや深さを味わおうとしている。
【思考力】	・ 作者の文章表現の工夫に気付くとともに、自分の感じたことや思ったことと本文の叙述とを関連付けながら適切な表現方法を考えている。 ・ 出来事や登場人物の心情の変化を単純化して考え、物語全体の流れを大きくとらえるながら、適切な情報を叙述から取り上げている。	・ 本文の叙述と自分の感じたことや思ったこととを関連付けながら適切な表現方法を考えている。 ・ 出来事や登場人物の心情に着目して、物語全体の流れを大きくとらえている。
【自己理解】	・ 椋鳩十作品について紹介することを通して、作品のもつ面白さや深さを感じるとともに、自分の考えの広がりや深まりに気付いている。	・ 椋鳩十作品を紹介することを通して、自分の考えの広がりや深まりに気付いている。

指導と評価の計画

全 11 時間

次	時	学習内容	評 価			評価方法
			関	読	言	
		朝読書 ○椋鳩十作品の作品の読み聞かせを聞き、椋鳩十作品に興味をもつ。				
一	1	課題の設定 (2) ○教材文「大造じいさんとがん」の初読の感想を交流し、学習計画を立てる。 ・ 範読を聞き、初読の感想を交流する。 ・ 作品のもつ楽しさやおもしろさを伝えたいという願いをもとに、自分の感じたことや思ったことが伝わるように椋鳩十作品の紹介ポップを作ることをゴールに設定する。 ・ 本単元で付けたい力について、「学びのモニタリング」の視点で考える。	○			・ 「大造じいさんとがん」について関心をもち、主体的に読んでいる。 発言 行動観察 ノート
	2	○教材文「大造じいさんとがん」の物語に「問い」をもつ。 ・ 初読の感想などをもとに、大造じいさんの行動や心情に対して疑問や不思議に思ったことを「問い」として出す。 ・ 「問い」をもとに学習計画を立てる。	○			・ 紹介ポップを作成して椋鳩十の作品の深さを紹介するために、必要な観点を理解し、単元で付けたい力について考えようとしている。 発言 行動観察 ノート
二	3	情報の収集 (3) ○大造じいさんと残雪の対決の様子を通して、出来事を整理する。 ・ 場面の移り変わりを考え、起承転結をとらえる。 ・ 大造じいさんの計略とそれを見破る残雪との知恵比べを通して、大造じいさんの残雪に対するとらえ方を整理する。		○		・ 登場人物の相互関係や出来事について、自分の考えをもっている。 発言 行動観察 ノート

次	時	学習内容	評 価				
			関	読	言	評価規準	評価方法
二	4	○情景描写に着目し、登場人物のどのような心情が現れているか考える。 ・色や音、比喩の表現に着目し、優れた叙述について考える。			○	・叙述中における比喩や擬態語・擬音語、色彩語などの工夫に気付いて読んでいる。	発言 行動観察 ノート
	5	○大造じいさんと残雪との対決の様子を通して、大造じいさんの残雪に対する心情の変化を捉える。 ・物語のクライマックスと選んだ理由を考える。 ・大造じいさんの独語や心内語に着目し、残雪に対する大造じいさんの心情の変化を読み取る。 【本時】		○		・大造じいさんと残雪の対決を通して大造じいさんの残雪に対する心情の変化を捉え、物語のクライマックスを捉えている。	発言 行動観察 ノート
	6	整理・分析（1） ○「大造じいさんとがん」で、印象に残った場面を選び、その理由や自分の考えを紹介ポップにまとめる。 ・印象に残った場面を選んだ理由や感じたことを整理する。 ・読み手に注目してほしい場面や考えてほしいことなどを考える。		○		・優れた表現から読み取った印象やメッセージを関連付けて読み、自分の考えをまとめている。	発言 行動観察 紹介ポップ
三	7 ・ 8	まとめ・創造・表現（4） ○椋鳩十作品の中から紹介したい作品を選び、気付いたことや感じたことを交流する。② ・同じ作品でグループを作り、内容の概要を捉えるとともに、出来事、登場人物の心情の変化、情景描写について整理する。	椋鳩十作品の 並行読書		○	・自分の考えをもち、優れた表現から読み取った印象やメッセージを関連付けて読んでいる。	発言 行動観察 ワークシート
	9	○椋鳩十作品の中から選んだ作品で、印象に残った場面を選ばせ、その理由や自分の考えを紹介ポップにまとめる。 ・印象に残った場面を選んだ理由や感じたことを整理する。 ・読み手に注目してほしい場面や考えてほしいことなどを考える。			○	・優れた表現から読み取った印象やメッセージを関連付けて読み、自分の考えをまとめている。	発言 行動観察 紹介ポップ
	10	○紹介ポップを交流する。 ・友だちと紹介ポップを交流し、同作品同士や違う作品から、考えの違いや関心を引くための工夫といった気付いたことや感じたことをまとめる。 ・紹介ポップの交流を通して、共通点や相違点をまとめる。			○	・自分の考えをもち、出来事や登場人物の心情の変化、椋鳩十の作品にこめたメッセージを読み取っている。	発言 行動観察 ノート
	11	振り返り（1） 学びのモニタリング ○自らの学びや学び方を振り返る。 ・単元の初めに立てた「学びのモニタリング」の視点で、自分の考えを基に自らの学びを振り返る。			○		・学習を通して自分の考えを広げたり深めたりしている。

本時の学習

(1) 本時の目標

- 大造じいさんと残雪との対決の様子を通して大造じいさんの残雪に対する心情の変化をとらえることができる。

(2) 本時の評価規準

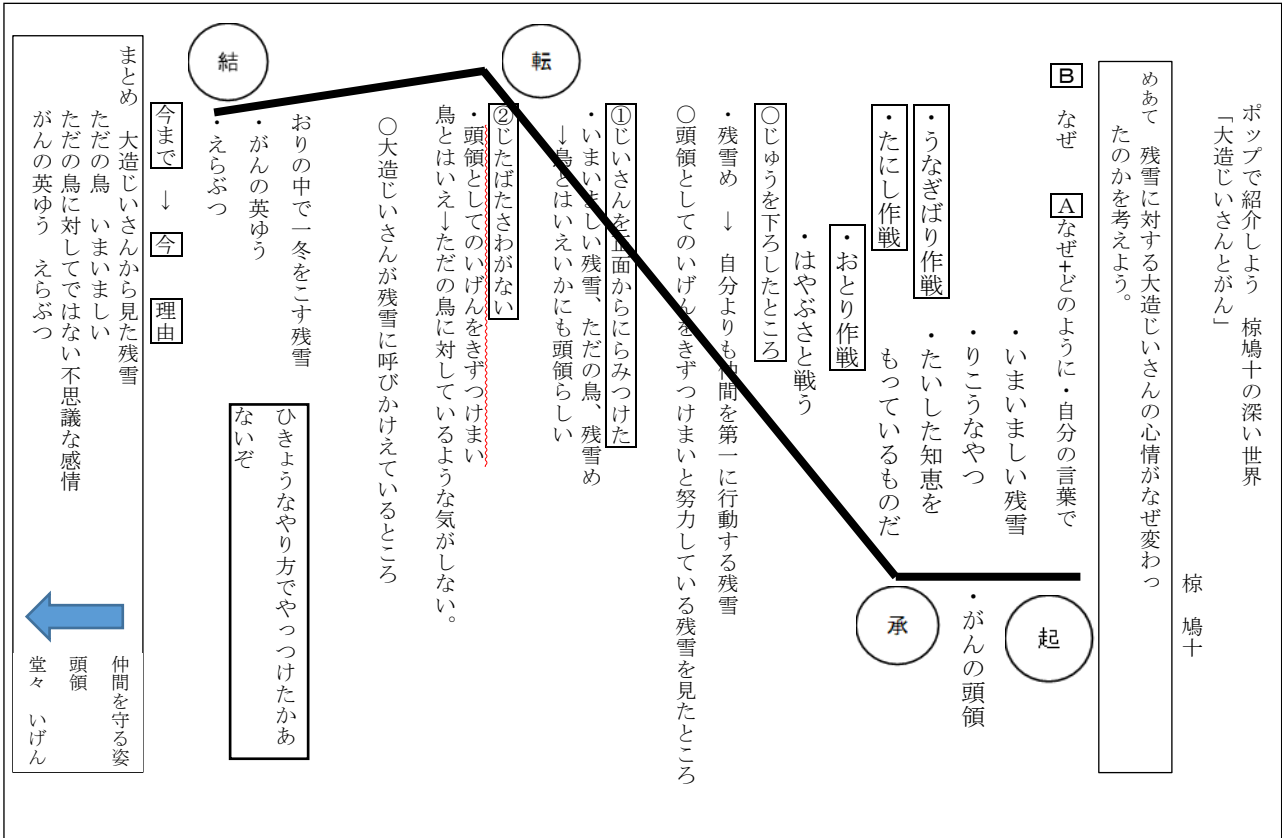
- 大造じいさんと残雪の対決を通して大造じいさんの残雪に対する心情の変化をとらえている。
【読む能力】

(3) 本時の学習展開（5時間目／全11時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力
1 前時までの学習を振り返る。 ○最初に大造じいさんは残雪のことをどのように思っていましたか。 ・いまいましいやつ ・利口なやつ ・たかが鳥 ○最後、大造じいさんは残雪のことをどのように思っていましたか。 ・がんの英雄 ・えらぶつ 2 本時の学習課題を確認する。 めあて _____	◇冒頭部分と結末部分での大造じいさんの残雪に対するとらえを確認する。 ◇児童の考えた「問い」をもとに、本時のめあてを考えさせる。	
残雪に対する大造じいさんの心情がなぜ変わったのかを考えよう。		
本時のゴールの見通し A ：叙述を関連付けて、大造じいさんの残雪に対する心情が変化した理由を物語全体から考え、どのように変化したかを捉えて、自分の考えをまとめることができる。 B ：叙述を関連付けて、大造じいさんの残雪に対する心情が変化した理由を考え、自分の考えをまとめることができる。		
3 残雪に対する大造じいさんの気持ちがどのように変化したかを考える。 ○残雪に対する大造じいさんの気持ちが変わったことが分かる場面はどこですか。 ・銃を下ろしたところ ・頭領としてのいげんをきずつけまいと努力している残雪を見たところ □思考の場の工夫 関連付ける 大造じいさんの心情を「プロット図」にまとめ、それぞれを関連付けることで、心情の変化を捉えさせ、起承転結を意識してクライマックスの場面を考えさせる。	◇変化した理由を大造じいさんが行った計略などの出来事から考えさせる。 ◆場面ごとの大造じいさんの心情を捉えることが難しい児童に対しては、大造じいさんが残雪をどのように見ているかわかる表現に着目させる。	

<p>学習活動</p> <p>○主な発問</p> <p>・予想される児童の反応</p> <p>□思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項</p> <p>★めざす児童の姿</p> <p>◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕</p> <p>(評価方法)</p> <p>◎本時で付けたい力</p>
<p>4 グループ交流を行う。</p> <p>○大造じいさんの残雪に対する気持ちが最も変化したのはどこか、また、なぜ変化したのか考えましよう。</p> <p>・銃を下ろしたところ</p> <p>→仲間のために戦う残雪に心をうたれたから</p> <p>・頭領としてのいげんをきずつけまいと努力している残雪を見た場面</p> <p>→「強く心を打たれて、ただの鳥に對しているような気がしませんでした」とあるから</p> <p>5 全体交流を行う。</p> <p>○大造じいさんの残雪に対する心情がどのように変わりましたか。その理由は何ですか。</p> <p>・銃を下ろしたところ</p> <p>→最初は残雪をただの鳥とみていたが、仲間を守る残雪の姿に感動して、鳥ではなく人のように思えたのではないか。</p> <p>→「何と思ったのか」とあるから、いまいませがなくなりつつある。</p> <p>・頭領としてのいげんをきずつけまいと努力している残雪を見たところ</p> <p>→「強く心を打たれて、ただの鳥に對しているような気がしませんでした」のように、ただの鳥→ただの鳥ではないと変化がみられる。</p> <p>→仲間を守る残雪の姿を見て、「あの残雪め」という表現からいげんがあるというとらえ方に変化している。</p> <p>6 本時の学習のまとめをする。</p>	<p>◇叙述をもとに、残雪に対する大造じいさんの心情が最も変化した部分をグループで考えさせる。</p> <p>◇大造じいさんの心情が最も変化した場面の前後で、どのように変化したのか叙述に基づいて説明させる。</p> <p>◇大造じいさんの心情の変化のきっかけとなる出来事を、叙述をもとに、理由として説明させる。</p> <p>◇大造じいさんの心情の変化のきっかけとなる出来事を、叙述をもとに、理由として説明させる。</p> <p>◇他のグループの意見をもとに、自分たちのグループで出た意見と比較させ、共通点や相違点を考えさせる。</p> <p>◇情景描写に着目させ、大造じいさんの心情を読み取る手掛かりとさせる。</p>	<p>◎大造じいさんと残雪の対決を通して大造じいさんの残雪に対する心情の変化をとらえている。〔読む能力〕(ノート、行動観察)</p>
<p>★めざす児童の姿</p> <p>大造じいさんが残雪を撃たなかったのは、今まで残雪のことを「ただの鳥」や「いまいませいやつ」だと思って一泡吹かせることだけに夢中になっていたけれど、残雪の頭領として仲間を守る姿や、頭領としていげんを守ろうとする姿に感動し、気持ちも大きく変わったのだと思います。そこで、「ただの鳥」と思っていた残雪に對して、ただの鳥ではなく尊敬をこめて、最後は「がんの英ゆう」や「えらぶつ」というように対等な見方をしているのだと思います。</p>		

(4) 板書計画



学びのモニタリング

ポップで紹介しよう 椋鳩十の世界
「大造じいさんとがん」

五年 組 ()

主体性

・進んで物事に取り組む力

○椋鳩十作品を読み、物語の面白さや深さを味わおうとした。

- 5 としまよく できた
- 4 できた
- 3 できた
- 2 できなかった
- 1 できなかった

思考力

○作品の中の言葉と自分の感じたことや思ったことを関連付けながら適切な表現方法を考えた。

○出来事や登場人物の心情に着目して、物語全体の流れ（起承転結、クライマックス）を大きく理解する。

- 5 としまよく できた
- 4 できた
- 3 できた
- 2 できなかった
- 1 できなかった

自己理解

・自分のよさや成長に気づく力

椋鳩十作品を紹介することを通して、自分の考えが広がったり深まったりしたことに気づくことができたか。

- 5 としまよく できた
- 4 できた
- 3 できた
- 2 できなかった
- 1 できなかった

学び方を振り返って

成長したこと

課題だと思っことや次の目標